

社 報



熱中症シーズン

春も過ぎ、初夏の陽気を迎え、今年も熱中症のシーズンがやってきます。

特に、気温・湿度が上昇過程にある6月には、体が熱さに慣れておらず、熱中症の発生が起りやすいと聞いています。気分が悪くなったら、休憩するのではなく、すぐ病院へ行き点滴で水分を補給することが大事です。ためらわずに病院へ直行です。

仕事中は、喉が渇いていなくても、30分に1回は水分を補給することも重要です。

適度な休憩と水分補給で、熱中症を予防しましょう。



職人不足は解消するのか

建設業界では最近、職人さんの労務不足が良く話題になります。建設現場で人手が足りないのを、どう補って工事を消化するかが課題になっています。

先日、清水建設大阪支店の田中支店長様の挨拶をお聞きする機会がありました。その中で、清水建設の社員と現場の職人さんを確保できれば、仕事はいくらでもある……、という意味の事を言っておられました。

つい数年前は、職人さんに仕事がなく、ゼネコンさんにも仕事がなく、皆で仕事の取り合いをしていた事が、ウソのようです。

ゼネコンさんは各社とも、仕事の受注状況を下請け業者に連絡し、仕事の分担を決めると同時に、発注価格も上げながら業者の確保に動いているように聞いています。

こうした状況であれば、下請け業者は積極的に職人を集めて、雇用を増やそうとしようものですが、そうした動きは目立つほどではないようです。

ゼネコンさんは労務不足に危機感を感じて、慌てている様子ですが、

下請け業者は、「何をいまさら……」と冷めた目で見ているような感じです。

景気の動きは、好況・不況を繰り返します。これは天気と同じで、晴れた日ばかりが続かないのと同様に、景気も経済の大きな流れの中で、浮き沈みしているのです。

この流れの中で、需給のバランスも絶えず動いています。建設業界に職人さんが余ることもあれば、足らなくなることもあり、ある一定のレベルで安定することはありません。

職人さんが不足して、人件費が高くなれば、人手を掛けなくても建物ができるような工法が普及してくるでしょうし、建物の価格が高くなれば、建設をしようという動きも沈静化していくでしょう。

目先の職人さんの不足が当社にとって、追い風であることは間違いないですが、これはいつまでも続くものではありません。

大事なことは、短期の状況に対応しつつ、未来を見定め長期の施策を立てて確実に実行していくことです。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

通勤途中で交通事故

現場への通勤途中で交通事故が発生しました。浦谷部、斉藤さんが、単車で現場へ向かう途中、飛び出してきた自転車を避けようとして横転した模様です。本人は肋骨を数本骨折し、全治1ヶ月の休業加療を要する重傷を負ったとのこと。

交通事故はいくら自分が気をつけて

いても、相手がある場合、防ぎようのないことがあります。

いくら安全運転を心がけていても、もらい事故もあるのですから、焦りの気持ちや、急ぐ心があれば、事故の発生確率は数段に高まります。

いつも安全運転でお願いします。

ご安全に！

2013年 安全成績

■現場災害 H25.1.1-H25.6.4

休業災害	-----	0
不休災害	-----	0
物損災害	-----	0
その他	-----	0
合計	-----	0

■交通災害 H25.1.1-H25.6.4

人身災害	-----	1
物損災害	-----	1
合計	-----	2